

**地域密着型金融の機能強化計画の推進に関する
アクションプログラム（平成17年～18年度）**

当金庫では、地域密着型金融の機能強化計画の推進に関するアクションプログラムの機能強化計画を策定し、取組みを推進するにあたって、その基本的な考え方および取組方針を以下の通り公表いたします。

記

・計画期間

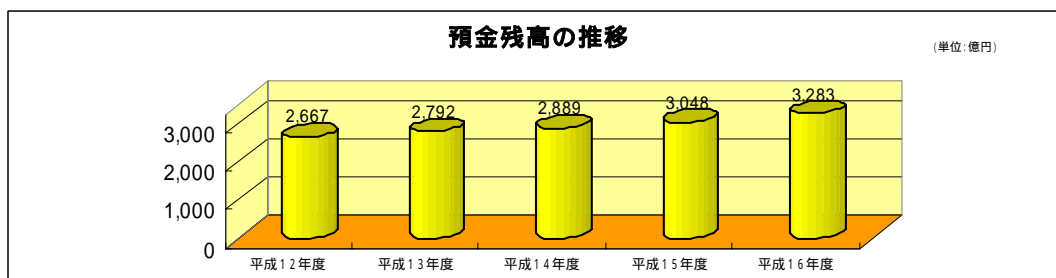
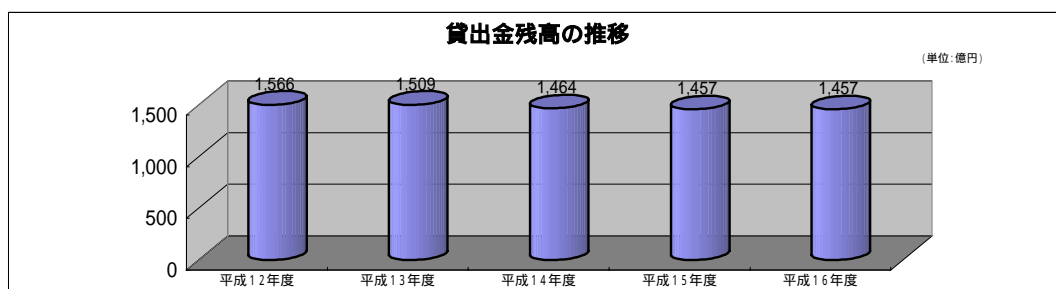
平成17年度～平成18年度（平成17年4月1日～平成19年3月31日の2年間）

・当金庫の現況

地域のみなさまの信頼をいただき、近年預金は順調に増加してきました。しかし、貸出金は平成16年度末残において前年度比16百万円の増加を図ることができましたが、資金需要が回復傾向に入ったというまでには至っておらず、貸出金の推進が重要な課題であります。

（単位：百万円）

<項目>	13年度	14年度	15年度	16年度
預金	279,232	288,909	304,837	328,344
貸出金	150,954	146,454	145,709	145,725
預貸率（%）	54.06	50.69	47.79	44.38



・アクションプログラムの重要項目（大項目）毎の取組方針

信用金庫は、その本来業務であり使命とも言える融資を通じて、地域金融の円滑化を図り、地域経済を活性化させることに存在意義があります。

このことを信用金庫の原点と考え、当金庫は貸出金の増強を最重点目標とし、適正な対価負担を求めつつ、「融資に軸足を置いた質の高い金融サービス業」を目指したビジネスモデルを展開します。

そのために地域密着型金融推進のための機能強化に向けた土台作り、収益管理態勢の強化等、“経営の質”を重視した方向へと転換するため、平成17年度は以下の通りの経営方針を定めています。

- 収益力の向上と統合リスク管理体制の整備・充実による経営力の強化
- イ 貸出金の増強
- ロ 貸出金利のプライシングの徹底
- ハ 財務支援活動によるランクアップの推進、ランクダウンの防止
- ニ 経費の削減
- ホ 信用リスク、市場リスク等の統合リスク管理体制の整備と充実
- 顧客ニーズを重視した金融サービスの提供と顧客保護ルールの徹底
- イ 投資信託（平成17年10月取扱開始）と個人年金保険窓口販売を柱としたファイナンスの展開
- ロ 顧客説明態勢の徹底
- ハ 個人情報保護等情報管理体制の確立

平成15年4月から平成17年3月までのアクションプログラム機能強化計画期間における全体的な進捗状況については、ほぼ計画通り推移したと認識しています。

しかし、当金庫および取引先の規模的要因において、取組みが困難な項目もあり、検討段階に止まっている項目もあります。今回の「地域密着型金融推進計画」を策定するに当たり、アクションプログラムの全項目について真摯に積極的に取組むことが必要ですが、当金庫の規模的な面からも「選択」と「集中」を踏まえ、以下の通り取組む方針としています。

これにより、当金庫が地域社会からより期待され、より信頼される金融機関を目指すものです。

1. 事業再生・中小企業金融の円滑化

(1) 当金庫は、貸出金の増強を図るため、平成15年4月より事業所を担当するビジネスマネージャー（平成17年7月末現在 業務推進課員全98名中、30名がビジネスマネージャーとして活躍中）を全店に配置しました。このビジネスマネージャーの事業先の支援活動の中で経営相談・支援機能を果たし、「目利き」能力と融資審査能力を向上させながら、「創業・新事業支援機能等の強化」にも結び付けていくことが重要であると考えています。

(2) 「要注意先債権等の健全債権化」に関しては、平成15年7月に「財務支援室」を設置し、お取引先企業の財務面での改善による企業体質の強化に協力できる態勢をスタートさせ、実効が顕れてきたところです。

今後も次の通りの数値目標を掲げ、「財務支援室」と「営業店」が一体となって積極的に取組む方針です。

< 数値目標等 >

・ 経営改善支援取組先数（名寄せ後先数）

17年度、新規取組み先数 19先以上

18年度、新規取組み先数 19先以上

・ 活動実績の公表

経営改善支援取組み先数、ランクアップ先数、ランクアップの要因等

(3) 担保・保証に過度に依存しない融資の推進の項目においては、平成16年12月より無担保・第三者保証人不要のスコアリングモデルを採用した融資商品「やましんビジネスローン『社長！どうですか』」を取扱開始し、平成17年7月末現在では、地元商工会会員の方を中心に、実行累計150件 実行金額615百万円の取組実績となっています。

また、17年8月からは信用格付結果を反映させた融資商品「経営安定資金【本業無担保証貸】」の取扱いも開始しており、今後とも中小企業の資金円滑化を図るべく推進していきます。

推進計画においては、次の通りの数値目標を掲げ積極的に取組む方針です。

< 数値目標 >

担保・保証に過度に依存しない中小企業向け貸出金実行金額

17年度 10億円

18年度 10億円

(4) 「顧客への説明態勢の整備、相談苦情処理機能の強化」については、地域からより一層信頼されるためにも金融機関として当然のことと捉え、顧客への説明態勢の整備について平成17年7月15日から実施し、全店に周知徹底したところであります。今後も定期的な研修等の実施により説明態勢を徹底する方針です。

(5) 人材の育成は、企業経営の根幹にかかわる重要な要素であり、ゴーイングコンサーンの観点からも、継続的な育成を行っていかなくてはなりません。

地域密着型金融の機能強化推進に際しても、人材の育成無くして取り組み項目の推進も限定的となることから、計画的な育成を図ることとしています。

具体的には、研修の充実と、中小企業診断士の育成を図ります。

2. 経営力の強化

(1) 平成15年度から17年度における新3ヵ年計画「やましんチャレンジ21」においては、次の通りの主要計数目標を掲げ、収益力の向上に取り組んでいるところであります。

< 3ヵ年計画主要計数目標 > (平成18年3月期時点)

コア業務純益率 0.5%

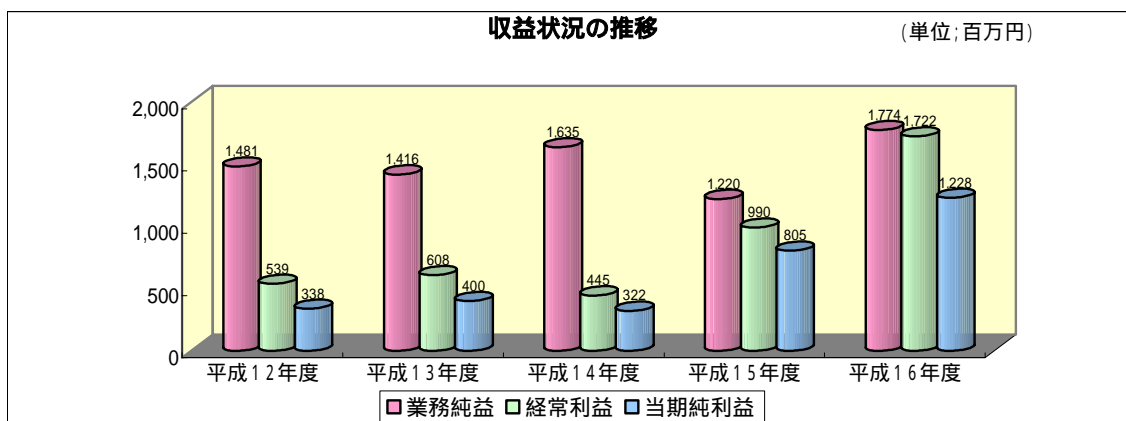
コア業務純益 17億円

役職員 320名体制

人件費2億円、物件費1億円、計3億円の経費削減

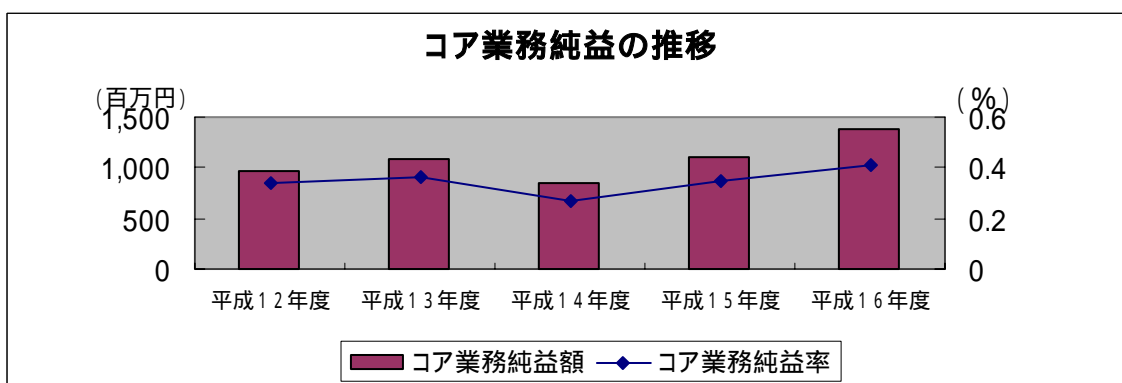
当金庫は中小企業への円滑な資金供給ときめ細かいサービスの提供により、豊かで活力ある地域社会作りをすることを基本としています。そのためには先ず金庫自身の堅固な経営基盤が必要であり、「収益力の強化」を最優先課題とし、基本的な収益力を示す数値であるコア業務純益を目標数値としています。

これまでの計画推進の結果、経費削減等の収益力改善効果もあり、17年3月期決算においては税引後当期純利益は1,228百万円と実質的に過去最高利益を計上することができました。



コア業務純益の推移

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
コア業務純益(百万円)	962	1,086	846	1,109	1,390
コア業務純益率(%)	0.33	0.36	0.27	0.35	0.42



コア業務純益とは基本的な収益力を示す数値であり、業務純益から債券5勘定戻と一般貸倒引当金純繰入額を差し引いた額です。コア業務純益率はコア業務純益額を総資産で除した比率です。

(2)「経営力の強化」の項目においては、“リスク管理態勢の充実”ならびに“収益管理態勢の整備と収益力の向上”を最重点目標として取組む方針です。

具体的には新BIS規制(新自己資本比率規制)への対応充実、リスク管理の高度化、さらに内部格付け制度の構築およびリスクに見合った金利設定への体制を整えます。

(3)「ガバナンスの強化」ならびに「コンプライアンス態勢の強化」の項目については、地域金融機関としての社会的責任と公共的使命の観点から、より高い倫理観を持ち、信用の維持・確保を図ることが求められており、引き続き最重要項目の一つと捉えています。

- (4)「IT戦略的活用」の項目については、顧客ニーズへの対応、利便性への対応、さらにはセキュリティー面にも的確に対応するため充実を図らなくてはならない重要な項目と捉えており、前向きに取り組む方針です。

3. 地域の利用者の利便性向上

- (1) 地域の利用者の利便性向上については、何よりも利用者満足度アンケートを重要視しています。

利用者の生の声を吸収し、それを経営に反映させることは、どの企業にとっても重要なことであり、利用者の声を聞かずして経営は立ち行かないと考えています。

常に利用者の目線とCSR(企業の社会的責任)の意識を忘れずに、利用者の利便性の向上に資する取組みを行っていきます。

- (2) 地域貢献に関する情報開示、ならびに経営内容に関する情報開示、さらにこの地域密着型金融の機能強化計画の推進状況の公表について、内容の充実かつ迅速な対応を行っていきます。

【地域密着型金融推進計画における数値目標】

<実績>		<数値目標>		
<数値目標設定項目>	16年度	(単位：百万円)		
		17年度	18年度	推進期間計
事業性貸出金増加額	2,915	4,500	5,000	9,500
事業性貸出金残高割合(%)	61.4	62.5	63.7	
預かり資産増加額	135	2,000	3,000	5,000
コア業務純益額	1,390	1,707	1,900	
コア業務純益率(%)	0.42	0.48	0.52	
ランクアップ取組み先数(先)	20	19	19	38
担保・保証に過度に依存しない 中小企業向け貸出金実行金額	363	1,000	1,000	2,000

- 事業性貸出金増加額.....信用金庫の本業である地域金融の円滑化を図るため、個人向け以外の貸出金の増加額を目標とし、中小企業向けの事業性貸出金を中心として増加を図ります。
- 事業性貸出金残高割合.....総貸出金に占める、事業性貸出金の割合です。
- 預かり資産増加額.....現在取扱中の個人年金保険に加え、17年10月から取扱を開始する投資信託を中心に、お客様の資金運用ニーズに応えます。
- コア業務純益額.....新3ヵ年計画「やましんチャレンジ21」における目標である17年度におけるコア業務純益額17億円を達成し、18年度には19億円を達成します。
- コア業務純益率.....コア業務純益額を総資産で除した比率です。
- ランクアップ取組み先数...財務支援活動を引き続き充実させて、企業業績の良化を図り、債務者区分の引上げに繋げていきます。
(名寄せ後先数)
- 担保・保証に過度に依存しない中小企業向け貸出金実行額.....やましんビジネスローン「社長！どうですか」を中心に、担保や保証に過度に依存しない貸出金の増加を図ります。

以 上